

今日のキーワード 元気な「シニア」は今年も増加中！（日本）

毎年9月の第三月曜日は敬老の日です。今年、2002年まで敬老の日とされていた9月15日時点の65歳以上の高齢者人口は3,461万人、総人口に占める割合は27.3%と、ともに過去最高を更新しました。またこのうち100歳以上の人口は65,692人と、前年から4,124人増加しました。日本の高齢者割合は主要国最高で、労働力や消費力の面からも、元気な高齢者＝「シニア」の活動はますます注目されるものとなっています。

ポイント1

「シニア」の労働力は増加中！

日本の高齢者の就業率は、主要国で最も高い

- 総務省統計局発表の「労働力調査」によると、2015年の高齢者の就業者数は730万人と過去最多を更新し、12年連続の増加となっています。一方、同年の高齢者の就業率は21.7%、男女別では男性は30.3%、女性は15.0%となっています。また、15歳以上の就業者総数に占める高齢者の割合は11.4%と、こちらも過去最高を更新しました。
- 日本経済新聞社のアンケート調査によると、「実年齢よりも10歳以上若いと思う」という「シニア」の割合は半数以上にのぼるなど、生き生きと活躍する姿が多方面で見られています。

ポイント2

「シニア」は消費力もアクティブ！

旅行や趣味などに高く支出し、余暇を満喫

- 職を手にする高齢者の割合が増える中、高齢者による消費の力にも注目が集まります。例えば、支出項目別に1世帯当たりの消費支出を見てみると（2015年、総務省統計局「家計調査」より）、国内・海外旅行などの「パック旅行費」に対する支出は、25～34歳の世帯の2.98万円に対し、65歳以上の世帯では6.01万円と、およそ倍となっています。また、カルチャースクール等の月謝の一部などを含む「他の教養的月謝」は、同世代間では65歳以上が3倍以上の支出となっています。



今後の展開

健康的でアクティブな「シニア」の活躍に今後とも期待！

- 消費支出を主な項目に分けて見ると、「保健医療」では、65歳以上の世帯は全世帯平均の1.34倍となり、健康の維持や増進のために「保健医療」に多く支出していると考えられます。また、「交際費」には同様に1.42倍の支出が見られ、その内訳は子・孫世帯への金品の贈与が多くなっています。高齢者自身にとどまらないこうした支出は、他の世帯への消費にも好影響と考えられます。主要国の中でも、最も早いスピードで高齢化が進行する日本。今後とも高齢者層がこれまで以上に健康的でアクティブに、働き手としても消費者としても活躍されることが期待されます。

ここも チェック！

2016年9月12日 「街角景気」は2カ月連続で改善（日本）

2016年9月 6日 「給与」は2カ月連続で高い伸び（日本）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。